

日本語私辞典

いつもの朝、いつもの挨拶をして、いつもの人達に会って、いつものように笑って、いつものように寝る。

そうやっていつも当り前にある物や人が突然消えてしまった。…そんなこともいつもある。

それも日常ならば、当り前に「私」だと思っていた「私」が突然「私」ではなくなってしまう事だってあるだろう。

そうなると思つて初めて気づく「私」には、さて、誰がいつ気付くのでしょうか？

登場人物 役者1

役者2

役者3

役者4

役者5

役者6

役者7

役者8

役者9

舞台正面の壁には白い紙が一面に張られている。

役者たちが出てくる。

ひとりの役者が思い出したように、

役者1 あ。愛。

と言うと、白い紙に五十音(濁音・半濁音含め)を墨で書いて行く。

役者2 一生。

役者3 上。

役者4 笑顔。

役者5 丘。

役者6 牡蠣。

役者7 菊。

役者8 口づけ。

役者9 稽古。

役者2 コウモリ傘。

役者3 サギ師。

役者4 白州。

役者5 …す、…水道橋博士！

役者6 清楚。

役者7 ソナタ。

役者8 太鼓持ち。

役者9 地下鉄。

役者2 通勤手当。

役者3 テント。

役者4 虎の穴。

役者5 ナイルワニ。

役者6 …に、…に、二千円…の犬…。

役者7 …盗んだお金…。

役者8 ねりもの。

役者9 脳波。

役者2 母の日。

役者3 皮膚。
役者4 故郷は八戸。
役者5 …変な逮捕。
役者6 ホッキョクグマ。
役者7 松の夷。
役者8 ミニマム。
役者9 娘。
役者2 メモ。
役者3 靄。
役者4 押掄。
役者5 猶予。
役者6 夜空。
役者7 ラビオリ。
役者8 リール。
役者9 ルチャリブレ。
役者2 レトロ。
役者3 ロッキー、第二話
役者4 ワンコイン。
皆…。

皆 役者5を残して去る。

役者5 「私」は、私にとって「私」であって、他の人が私の事を「私」と言う事はありません。同様に「私」も、他の人の事を「私」と呼ぶことはないです。稀にちよつと偉そうで初対面のおじさんなんか「おい、その私」と言う事はありますが…

役者3 おい、その私。

役者5 …私ですか？

役者3 私はどう思うんだ？

役者5 いや、あなたがどう思うかはわかりません。

役者3 私じゃない、君だ。

役者5 …あ、私ですか？

役者3 うん、だからそう言ってるじゃないか。

役者1 あ、「私」って、もしかして私の事ですか？

役者3 いや君の事じゃない。

役者1 私も私なんですけど。

役者5 私も私です。

役者3 もういい分かったごめん。

役者5 というように、なんだかややこしいことになってしまつので世の中のちよつと偉そうで初対面のおじさんはそういう呼び方は止めた方がいいと思います。仮にこの世界から「た」という文字が消えてしまった場合、その言葉の概念をも消えてしまったとしたら「私」は、その途端「わし」となって、「わし」は普通男性の呼び方だから「私」はもう女性ではなくなってしまうので…

役者9 はい、おじいちゃん、お茶。

役者5 (腰を曲げ) おー、すまんのお。

役者9 ねえおじいちゃんは、いつからおじいちゃんなの？

役者5 おじいちゃんはないなあ、お前が産まれた時からおじいちゃんになったんじや。

役者9 じゃあおじいちゃんは、おじいちゃんになる前はなんだったの？

役者5 おじいちゃんになる前か？なる前は女じゃ。

役者9 女でもおじいちゃんになれるの？

役者5 (背すじを伸ばし) 私はおばあちゃんならともかく、おじいちゃんにはなりたくはない。あーでもおじいちゃんの

事は好きですよ、私の、はい。えー、なのでこの世の中から「た」という文字が無くなった場合「私」は「私」の事を

役者6 自分はずすね。

役者5 とか、

役者6 ウチなあ、

役者5 とか、

役者6 あちきは、

役者5 とか、

役者6 ミー？

役者5 とか言わなければならなくなります。しかしこの場合呼び方によってキャラクターがどうしても変化してしまうの

が嘆かわしいところではありませんね。

役者6 (うなづく) …。

役者5 「私」は、「私」にとって「私」という存在であります、

役者7、隣にやってくる。

役者5 「彼」が隣に居たら、「私」は「彼女」とか「恋人」と呼ばれる存在に変わります。「彼」も自分の事を「私」とか

「僕」とか呼ぶけど、私から見たら「彼」は「好きな人」とか、「大切な人」とか、そういう存在になります。

役者7 「僕」は、話す人によって「僕」ではなくなる。後輩と喋るときは「俺」になり、上司と喋る時は「私」というものになる。しかしながら今まで生きてきて、「拙者」という存在には一度もなった事はない。「俺」、「僕」、「私」、たいていこの三つのうちのどれかの存在になっている。たまに彼女の前で甘えたりなんかしたりする場合には「僕ちゃん」、などという存在にもなったりもするが、そういう場合は「彼女」も、

役者8 おー、ヨチヨチ。

役者7 なんていう変なキャラクターになっている場合が多い。

役者5、ゆつくりと役者7を見る。

役者7、役者5を見て、ややあつて視線を戻す。

役者8、ゆつくりと役者7を見る。

役者7、役者8を見て、ややあつて視線を戻す。

両側から目を向けられている恰好の役者7。

役者7 僕は今、「絶対絶命」という存在になりました。

役者4 「絶対絶命の存在」、というとブルース・ウィリスのようなかっこいい人物像をイメージしてしまうのでやめて頂

きたい。

役者7 すいません。

役者4 「この男」はそんなかっこいい存在ではなくて、ただの「二股男」である。

役者7 僕は今、「二股男」という存在です。

役者5・8 彼は今、「二股男」という存在です(前を向く)。

役者4 この「二股男」を助けるには、この世界から仮になんの文字が消えたらいいか、皆さんも一緒に考えてみてください

役者5 考えなくてもいいです、時間の無駄ですから。

役者4 了解しました。それでは仮に、この世界から「ま」という文字を消してみましょう。すると「二股男」は、「ふた

た男」になります。

役者7 僕は今、「ふたた男」という存在です。

役者5 「ふたた男」？

役者4 これで彼は救われました。

役者8 「ふたた男」ってなんですか？

役者4 なんにでもふたをする男です。

役者7 よおーし、じゃあとりあえず二人で鍋でもしようか！俺はふたた男、ふたの事は任せてくれ！

役者4 「臭いものには蓋をする」、という言葉は、臭いものをそのままに、蓋をしてやり過す、つまり、「その場しのぎをする」、という意味です。

役者5と役者8、また役者7を見る。

役者7 どうしましょう、事態は悪化してしまいました。

役者2 それでは私が彼の弁護を試みましょう。

役者4 よろしくお願いします。

役者7 助かります。

役者2 皆さんから見れば、「ふたた男」は最低の男に映るかもしれませんが、家に帰れば「大黒柱」、そして私にとっては「良き夫」という存在に変わります。お帰りなさい。

役者5と役者8、また役者7を見る。

役者7 …どうしましょう、事態はますます悪化の一途を辿っております。弁護をして下さい。

役者9 お父さん！

役者2 そして「夫」はこの子から見れば、「お父さん」という存在に変わりました。

役者7 これはもう收拾不可能な状況です。

役者3 お父さん！

役者2 そして「二児の父」になりました。

役者7 それでは私はこの辺で。

役者7、逃げるように去る。

役者2 これである人は「逃亡者」という存在になり、私は「バツイチ」という存在になりました。このように、見る角度が違えば、「私」は「私」、という存在だけでなく、「二児の母」や、「不幸な女」、逆に「幸福な女」、という存在でもある訳です。

音楽。

役者2 では「私」とはなんなのか…私が私であるという証拠はどこにあるのか(去る)。

以下ひとりづつ出て来て、去っていく。

役者4 「私」は、「女」です。

役者6 「私」は、「娘」です。

役者7 「僕」は、「フリーター」です。

役者5 「私」は、「おねえちゃん」である。

役者9 「僕」は、「役者」です。

役者8 「私」は、「まじめな人」である。

役者3 「私」は、「おじさん」である。

役者1 「私」は、「人間」である。

役者2 「私」は、「生きている」。

役者2、手には辞書を持っている。

役者2 神は六日で天地を創造したらしいのですが、これは六日で私の世界が消えていくお話です。だとすると七日目は、明日の為の休日になりますね。

役者2、辞書を役者5に渡して去る。

目覚まし時計の音。

【二日目】

役者5 おはようございます。朝です。目が覚めると私は、「私」である事を無意識のうちに確認します。そして顔を洗い、歯を磨き、私は「私」である事を実感します。

役者9 おはよう。

役者9、椅子を持って来て腰掛ける。

新聞を読んでいる。

役者5 おはよう。この人は、「お父さん」である。「お父さん」を見て、私は「娘」である事を確認する。

役者4 おはよう。

役者4、食卓の準備。

役者5 おはよう。この人は「お母さん」。これで私は、「家族の一員」であることを確認する。

役者4 はい、「ご飯出来たわよ。

役者5 いただきます。御飯、納豆、焼き魚、おしんこ、味噌汁。旅館の様な朝飯である。お父さんは、塩鮭が大好きである。

役者9 うん、お父さんはな、塩鮭があれば、「ご飯何杯でも食べられる。

役者5 というのが口癖であるが、たいてい二杯しか食べない。

役者4 お母さんね、わからない事があるの。

役者9 お、どうした？

役者4 この魚は、「じゃけ」なのか「さけ」なのか、どっちなの？「さけ」が正式名称だと思ってたんだけどワープロで「じゃけ」と打つてもちゃんと漢字に変換されるのよ。

役者9 なるほどな、携帯でも変換されるかい？

役者4 やってみて、

役者9 うん。

役者5 朝からホント、どうでもいい会話である。しかしこんなどうでもいい会話が出来るといいなあ、と少しほっこりした気分になる。

役者9 おおー、変換されるねえ。

役者4 でしょ。ねえ、どっちが正しいの？

役者9 うーん、そおだなあ、

役者5 行ってきますーす。

役者9と役者4、去る。

役者5 「私」は家を出ると「いつもの道」を歩く。これで私は「娘である私」から(役者8に辞書を渡して去る)。

役者8 「登校する私」になる。だがこの場合息をつけないなければならないのは、私は必ず制服を着て、明らかに「登校している」、という歩き方をしなければならぬことだ。そうでないと私はただの「歩いている人」になってしまうからで、

役者1、やってきて、

役者1 おはよう。

役者8 …おはようございます。

役者1、去る。

役者8 …今の人は毎朝私に挨拶してくるが、誰なのかわからない。気持ち悪いが無視すると余計怖いので一応挨拶だけはしている。

役者2、やってきて、

役者2 おいっすー。

役者8 おはよう。

役者2 なあなあ、明日の数学、勉強しとる？

役者8 この人は友人の「カナコ」である。

役者2 もうウチ、数学諦めたわ、もうええ。

役者8 とか言っ奴に限って、

役者2 うっわー、90点も取れとった、全然勉強してへんのに。

役者8 とか言うのである。

学校のチャイム。

他の生徒達もやってくる。

役者8 「登校する私」は学校に着いてしまえば、

役者6 (辞書を受け取り)「登校してしまっただ私」となる。同時に「高校生である私」となる訳だが、じゃあ普段は高校生ではないのかということそうではない。そうではないが、制服を着ていない「私」は私以外の人から見たら「高校生かもしれない人」というレベルでしかない訳で、

役者2 何独りで喋ってんねん。

役者6 「カナコ」はこう見えて「学級委員」である。

役者2 次、世界史じゃんねえ、もーイヤやわあ。

役者6 世界史も諦めたの？

役者2 ちやうちやう、世界史がやって訳やないねん、世界史の花田、あいつ答案配る時ツバつけるやん、もうあれホント止めて欲しいわ。あの答案配られてくるだけでやる気無くす。

役者9、やって来て、

役者9 ガラガラ。

役者2 わ、来た…。起立、礼、着席。

生徒達、椅子に座る。

役者9 えー、今からやる世界史のテストなんですけど、えー一つミスプリがありまして「問5」の問題なんですが、これ問題じゃなくて答えが書かれています。

生徒達 「えー、やったー」など小さく声を上げる。

役者9 なので、この答えが導き出される問題を書いて下さい。

生徒達 「えー?」

役者9 いやいやいや、これはこちらのミスなので、好きなように考えて貰って構わないですよ。例えばイギリスという答えならば、「四文字のカタカナを書きなさい」みたいなね。

生徒達 「わーい、やったー」とか喜びの声。

役者9 じゃあ答案配りませう。

役者9、指を舐めながら、答案を一枚一枚配って行く。
うなだれる生徒達。

役者6 カナコと話をするんじゃないか、そんな事言われたら私まで気にしてしまうじゃないか。

役者9 はい、じゃあ始め！はい、終わり！答案回収します。

役者9、指を舐めながら、答案を一枚一枚回収していく。

役者2 起立、

役者9 えー、明日は数学の鈴木先生のテストです。みんなちゃんと勉強しておくように。

役者2 礼。

役者9、去る。

役者7 ちょっとみんないい？自分、今までみんなに黙ってた事があるんだけど、

他の生徒達 「なに?」と顔を向ける。

役者7 実は自分「海賊」なんだ。だから自分の夢は「海賊王」になること。もうすぐ夏休みじゃんね、そしたら自分海に出るんで、もしかしたらそのまま帰って来ないかもしれない。そういう訳なんで、みんな今までありがとう。

他 …。

ぞろぞろと帰っていく生徒達。

役者6 当たり前のことかもしれないが、私以外の人は皆「私」ではない。しかし「私」ではない人達の中にも「私」という世界があり、そこには「私」には計り知れない問題をそれぞれ抱えている訳でして、

役者6、役者4に辞書を渡して去る。

役者4 ユキオ、海賊だったの？

役者7 うん、今まで黙ってごめん。

役者4 ううん…。

役者7 ほら自分、見た感じ海賊らしくないじゃんね。だから信じて貰える訳ないと思ってただけで良かった、信じて貰えて。

役者4 海賊らしいのはまずいと思うよ。

役者7 え？

役者4 あ、ううん。気をつけてね。

役者7 ありがとう。

役者7、去る。

役者4 「ユキオ」は、「海賊」だった。私のクラスには「海賊」が居た。

役者8、やってきてテーブルを拭く仕草。

役者8 ありがとうございましたあ。

役者4 「私」は夜になると「居酒屋の店員」になる。ありがとうございましたあ。

役者8 なんで海賊が居るんだて。

役者4 自分で言ったんです。「自分は海賊」なんだって。

役者8 ワンピースの読み過ぎなんだよその子。だいたい海賊が自分の事海賊なんて言う訳ねえじゃん。海賊ってのは悪い人なんだからね。最近海賊ブームなのか知らんけど、なんか勘違いしてるよね皆。

役者4 でも海賊ってかっこ良いイメージですよ。

役者8 じゃあ山賊の立場はどうなんの？

役者8、表の「ゆ」と「よ」の空白の部分に手を突っ込んで鎖鎌を取り出す。

役者4 店長！、ここに山賊が居ます。警察呼んで下さい。

役者8 冗談冗談（仕舞う）。

役者4 そうですよねえ、町にはそういう類の賊居ませんよ。

役者3、やってきて、

役者3 どうした？

役者8 あ、なんでもないです。

役者3 あ、もっこんな時間だ。上がっていいよ。

役者8 お疲れ様でした！。

役者8、去る。

役者4 お疲れ様でしたー。

役者3 もう遅いから、気をつけてな。

役者4 はい。(歩きながら) 私は居酒屋の制服を脱いで外に出ると、「夜遅くまでほっつき歩いている女」となる。

「私」達 (辞書を互いにリレーしながら) しかしそれではおまわりさんに声を掛けられてしまうので私は極力「バイト帰りの帰宅する私」を装って歩く事を心がけている。そうでないと「君は今からどこに行くんだ?」とおまわりさんから声を掛けられてしまうのだが、しかしおまわりさんにしても制服を着ていなければおまわりさんだとは判らない訳だし、おまわりさんとはわからない男の人から声を掛けられたらそれは「不審者」となる訳で、

役者5 不審者と言えば、朝挨拶してくる「あの男」だ。私は最近、一人で歩いていると「あの男」の事が頭をよぎってしかたがない。だからバイト帰りは「いつもの道」を歩かない事している。だけど今日は

役者1 やあ、こんばんは。

役者5 こ、こんばんは…。

役者1 偶然ですね、こんな時間に。

役者5 どうも…。

役者1、去る。

役者5 変えた道でも会ってしまった…。

役者5、役者2に辞書を渡して去る。

役者2は、役者6と電話で話している。

役者6 それストーカーだよ絶対。

役者2 やっぱりそうかなあ…。

役者6 お父さんとかに相談してみた?

役者2 うん、帰ってすぐ言おうと思っただけけど…

役者9と4、紙の裏にシルエットで現れて、

役者9 そうか、昔の人は「さしすせそ」の発音が苦手だったから「シャケ」と呼んでいたんだな。

役者4 でも、身が裂け易いから、「サク」と言うんじゃないの?

役者9 うん、それはどうも違うみたいなんだよ。

役者4 そうなの?

役者2 朝のシャケの事を夜になっても話してたから言い出しにくくて。

役者6 何かあつてからじゃ遅いんだからね。

役者2 そうだね…。

役者6、去る。

役者2 そこで私は、私の辞書から「す」という文字を消した。これで明日から大丈夫!

役者2、辞書を閉じた。

音楽。

巨大な五十音表から「す」の文字が切り抜かれ、ハラリと落ちる。

あ	い	う	え	お
か	き	く	け	こ
さ	し	■	せ	そ
た	ち	つ	て	と
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ
わ		を		ん
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

役者5やっつけてきて、役者2から辞書を受け取る。

目覚まし時計の音。

【二日目】

役者5 おはよう！今日も一日が始まりました。いつもと同じように顔を洗って歯を磨いて、「私」は「私」である事を確

認して、リビングに行く。おはよう！

役者9 おはよう。

役者9は立ったまま新聞を読んでいる。

役者5 …あれ？

役者9 ん？

役者5 あ、ううん。

役者5も仕方無く立っている。

役者4、食卓の準備。

役者4 おはよう。

役者5 おはよう！

役者4 どうしたの？イイ事でもあった？

役者5 え？別に？

役者9 お前まさか、彼氏でも出来たんじゃないだろうな。

役者5 何言ってるの。

役者4 はい、ご飯出来たわよ。

役者5 いただきー。

役者4 …。

役者5 御飯、納豆、焼き魚、おしんこ、味噌汁。いつもの朝食。でも毎日食べても飽きない、それが朝飯というもの。

行ってくる！

役者5、家を出る。「私の辞書」が机に置きっぱなしで。

役者4 あの子…、いつからあんな乱暴な口の利き方になったのかしら。

役者9 やっぱりつきあってる男が悪いんじゃないのか。

役者4 どんな子と付き合ってるのかしら…。

役者9 許さんぞ、そんな男は絶対に許さん。

役者4 もおこんな所に辞書置いて。ちよつとー、ちよつと待ちなさい。

役者5、「す」の穴から顔を出し、

役者5 辞書持っていないでしょー？

役者4 え…？

役者5 しつかりしなさいよ。

役者4 私も母にそう言われて、今は我が子にそう言って…、

役者5 行つてらっしゃい。

役者5、顔を引つ込める。

役者4 私の歩く道は、この先あの子も歩く道。だけど「私」は「私」であつて、「母としての私」にはなれたけれど、「私の母」にはけしてなれない訳で、

役者9 じゃあ母さん、私も行つて来るね。

役者4 …ねえあなた、

役者9 ん、どうした？

役者4 あの子は、私達にとつてなんでした？

役者9 わが子だろ？

役者4 女の子のわが子の事を、なんと言つてました？

役者9 女の子のわが子？うーん…（考え込む）

役者8、鼻歌を歌いながら歩いて来て、役者4から辞書を受け取る。

役者8 「いつもの道」を今日は鼻歌混じりで歩いて行ける。とても気持ちがいい。まさか「あの男」がここまで私に精神的苦痛を及ぼしていたとは思わなかった。

「私」達の声 ♪歩こう、歩こう、私は元氣！、歩くの！、大…、歩くの！、大…、

役者8 この後の歌詞がちつとも出てこない。なんだったけなあ、と考えていたら、

役者1、やつてきて、

役者1 おはよう。

役者8 ……お、おはよう…。

役者1 今日はとても気分が良さそうだね。何かイイ事でもあつた？僕は最近あまりいいことが無くてね、例えばほら、みんなは「靴」を履いているよね。だけどそれは演劇のウソで本当は裸足だ。裸足だけど「靴を履いている」という演技をしている訳だよ。しかし靴を履いている演技ってなんだと思つろそんな演技が出来る役者がこの世に居るのかわからないし、そんな演技が出来たところであまり自慢にならないと思つろから僕は特に「靴を履いている」という事を意識してはいない。

役者8 …。

役者1 しかしだ、みんなはその「靴を履いている態」かもしれないけど、僕の場合は本当に裸足なんだ。靴を履いていない。それがなぜかという説明をしたかつたんだが君の顔を見ていたらそんな事はもうどうでもよくなつてしまった。どうもありがとう。

役者1、去る。

役者8 …なんだつたんだ今の話は。それになんだ…、なんでまだ居るの…？

役者2、やってくる。

役者2 おーい。

役者8 あ、おはよう。

役者2 なあなあ、ウガクの勉強やった？

役者8 …ウガク？

役者2 もううちウガク諦めた。もうええ。

役者8 とか言う奴に限って…

役者2 うわー、ウガクの試験満点やった。全然勉強してへんのにい。

役者8 もうここまで来るとほっておくしかない。それよりもウガクってなんだ…？

学校のチャイム。

役者8、辞書を役者6に。

役者6 ねえカナコ、次の試験つてさ…？

役者2 なにい？あんたも勉強してへんのかいな？必修やでウガク。

役者6 ウガクつて何？

役者2 何言ってるねん今更、ウガクは、ウを学ぶんやん。

役者6 「ウ」って？

役者2 鳥。

役者6 あ、鳥？

役者2 は？

役者6 え、それが必修？

役者2 当たり前やんか、商業高校は経営学や簿記が必修、鵜匠高校にはウガクが必修やん。

役者6 鵜匠？鵜飼の？

役者2 おい、大丈夫？

役者6 「私」はこの時初めて、「私」が鵜匠になりたい事を知った。これで「私」は「鵜匠の卵」となった。しかしより
によって「鵜匠」とは…。もつと他になりたいものはなかったのか。

役者9、やってくる。

役者9 ガラガラ。

役者2 え？なんで花田が…？

役者9 ん？

役者2 あ、起立、礼、着席。

皆、空気椅子状態。

役者6も、違和感を感じつつ腰を浮かしている。

役者9 えー、今日は鵜学担当の先生が来ておりませんので、私が試験監督である。さっそくであるが、答案用紙を配りた
いと思つ。

役者9、指を舐めながら、答案を一枚一枚配って行く。
うなだれる生徒達。

役者6 ねえ？

役者2 なに？

役者6 いつも、こんなだったっけ？

役者2 何が？

役者6 試験受ける時とか、授業受けてる時とか。

役者2 何言ってるねんさつきから。

役者9 はい、じゃあ始め！はい、終わり！答案回収していくぞ。

役者9、指を舐めながら答案を一枚一枚回収していく。

役者6 は、早く…、早くして下さい。

役者2 起立！

役者9 えー、明日は生物の柏原先生の試験である。みんなちゃんと勉強しておくように。

皆、安堵の声を上げ立ちあがる。

役者2 礼。

役者9、去る。

役者7 ちょっとみんないい？

皆、「今度は何？」みたいに顔を向ける。

役者7 自分昨日、自分は「海賊」だ、みたいな事言ったじゃんね。実はあれ嘘だから。今どき海賊なんて居る訳ねえし、

海賊が鵜匠になりたいなんておかしな話だかね。だって海賊って言ったら大海原でクジラとかクラーケンとか相手にしててる人達なのに、川で鵜操ってアユ捕まえるってなんなんそれ。だからみんなこれからもよろしく。

他…。

ぞろぞろと帰っていく生徒達。

役者6、辞書を役者4に。

役者4 ユキオ、海賊じゃなかったの？

役者7 うん、昨日は嘘ついてごめん。

役者4 ううん、それはいいんだけど…。

役者7 じゃあ。

役者7、去る。

役者4 「ユキオ」は、「海賊」ではなかった。私の教室には「海賊」は居なかった。

役者8、やってきてテーブルを拭く仕草。

役者8 当たり前だがね。

役者8 そんなに信じる方がどうかしらてるて。

役者4 でも、今日のユキオ、なんか変だった…、

役者8 なんもん変に決まっとるが。「自分は海賊」なんて言う奴変以外の何者でもないでしょ。

役者4 そうじゃなくて、その…

役者8 一遍連れて来やあそいつ、私が直接聞いたる。

役者4 先輩が？

役者8 一緒に酒飲みやわかるでしょそんなの。海賊ってのはね、酒飲んでバカ騒ぎしとるだけの人種なんだでね。その点山賊は違うよ、

役者8、鎖鎌を出す。

役者4 店長ー、また山賊が来ました。警察呼んで下さい。

役者8 冗談冗談（仕舞う）。

役者4 もしかしたらユキオは本当は海賊で、誰かに口止めされてるんじゃないかしら。

役者8 はあ？

役者3、やってきて、

役者3 どうした？

役者8 あ、なんでもありません。

役者3 もうこんな時間だ、上がっていいよ。

役者8 お疲れ様でしたー。

役者8、去る。

役者4 あ、先輩…！

役者8に呼びかけるが、もう居ない。

役者3 ん？どうした？

役者4 あ、いえ…、

役者3 もう遅いから気をつけてな。

役者4 …はい。

役者3、下がる。

役者4、辞書を役者5に渡して去る。

役者5 今日先輩と一緒に帰ろうと思ったのに…。「私」は、「いつもの道」を避けて、「昨日の道」もやめて、「初めての道」で帰ることにした。「あの男」に朝のように話しかけられたらたまらない。こんな事なら挨拶だけしてくる男の方がまだマシだ。

役者1、出てきて、

役者1 やあ、こんばんは。

役者5 …！

役者1 まさかこんな所で会うなんて驚きだね。今からどこかに行くの？家とはだいぶ方向が違っように思うけど、大丈夫？

役者5 ……、どうも。

役者1 もうじき夏の休日だ。夏と言えば冷たくて美味しい、早く食べないと溶けてしまう食べ物。昨日まであったように思っただけど、それがどうも無くなってしまったんだ。僕はあれが好物だったと思うんだけど、なんだったのかも思いつけないんだ。ソフトクリームはあるんだけど、あれじゃない。もつと固い、あれはなんだったんだろう？僕の想像上の食べ物だったんだろうか？

役者5 ……、じゃあ。

役者1 気をつけてねー。

役者1、手を振って去る。

役者5 ……もおマジでダメだ。ドーラムカック、なんであいつの好物の話を書かないかんだ。あーもうどうしよう、どの道通って帰ったらいいかわかんない…。

役者5、役者2に辞書を渡して去る。

役者2は、役者8と電話で話している。

役者8 その話聞いていると明らかに「つきまとい行為を行う人」なんだけどね。

役者2 でも私、辞書から一文字消したんだよ。もう何が消えたかも覚えてないけど、消したのは確かなの。

役者8 お父さんとかに相談してみた？

役者2 うん、帰って即座に言おうと思ったんだけど…

役者9と4、紙の裏にシルエットで現れて、

役者9 女の方が子もそうだけど、男の方が子の事はなんて言うんだい？

役者4 でしょ？分からないのよ…

役者9 でもあの私が私達の子供である事には変わりはないんだろ？

役者4 そうね、それはそう。

役者9 あの子がいずれ母になっても、私達にとっては「わが子」だよ。

役者4 あなた！見て見て、鳩（影絵で）。

役者9 おー、鳩だねえ。

役者2 二人してずっと影絵で遊んでたから言い出しにくくて、

役者8 子供か。

役者2 ねえ、どうしよう？

役者8 うーん、その男はいつもは挨拶だけだったのに今日はやたらと話かけて来たんだよね？

役者2 うん、なんかもう滅茶苦茶じょうでもイイ話をだらだらと喋るの、それがなんか一見爽やかそうで気持ち悪いの。

役者8 その一文字を消したことで、その男は、「話しを行う人」、つまり「トーカー」になったのね。

役者2 (ちよつとの間) あ、なるほど！

役者8 いっそ、「と」も「か」も消してみたら？

役者2 え、そんな事して大丈夫？

役者8 今日一日どうだった？一文字無くなった事で何か生活に支障があった？

役者2 いや、特には…

役者8 じゃあ大丈夫じゃない？

役者2 あ、そういえば、試験の時、いつもはもっと楽だったように感じたんだけど、とても辛かった。いつもはもっと、腰を低くしても、支えてくれるような便利な物があつたような気がしてるんだけど…

役者8 ああ、「腰掛け」の事？

役者2 そうだ「腰掛け」だ。「腰掛け」が無かつたんだ。

役者8 イイ？困ったら、別の視点で見てください。

役者2 ありがとうございます！

役者8、去る。

役者2 これで私は気兼ねなく、「と」「か」の二文字を消した。これでもう大丈夫。

役者2、辞書を閉じる。

音楽。

巨大な五十音表から「と」「か」の文字が切り抜かれ、ハラリと落ちる。

あ	い	う	え	お
■	き	く	け	こ
さ	し	■	せ	そ
た	ち	つ	て	■
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
ま	み	む	め	も
や		ゆ		よ
ら	り	る	れ	ろ
わ		を		ん
が	ぎ	ぐ	げ	ご
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
ば	び	ぶ	べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

役者5、やってきて辞書を受け取る。

目覚まし時計の音。

【三日目】

役者5 おはようー朝。いつも同じ気持ち良い朝。「私」は「私」。いつも通りの準備をして、リビングに行く。おはよう！

誰も居ない。

役者5 おはよう…。あれ？…。おはよう…。誰も居ない。家には、私だけ…。いつもは、私は単体では生きてはおらん
だはず。「私」はこの家に、共同で暮らしていた人間がいたはず。それが誰だったろう、思い出せない。私には大切な
それを、なんて言っていたのだろう…。いつもは私、朝（飯を食べていて、それは誰に作って貰ってたんだろう…？

役者8、「か」の空いた穴から顔を出し、

役者8 イイ？困ったら、別の視点で見てください。

役者5 「父」「母」…。そう、「父」「母」だ！

役者9と4、出てくる。

役者9 おはよう。

役者5 あ…、

役者4 おはよう。

役者5 あ…、

役者5、子供のように泣きべそをかいている。

役者9 ん？どうした？

役者5 父…！

役者4 さあ、出来たわよ。

役者5 母…！

役者4 何泣いてるのよ、ご飯出来たわよ。

役者9 お前…、これは私の想像ではあるが男性にもて遊ばれたのじゃあるまいな！

役者5 違うよおー、もおー、父のアホー！

役者9 おいおい、父に向けてなんだその言い草は。

役者5 馬アンド奈良に居る動物ー！

役者9 なんなんだそれは。

役者4 もうあなたつたら、無駄な詮索はしないの。さあ、早く食べなさい。

役者5 ご飯、味噌汁、シオジャケ、おしんこ、大豆の腐ったの。

役者9 お前はいつも大豆の腐ったのなんて出してるの？

役者4 えー？！

役者5 あー、これなんて言ってたっけー？もー。

役者9 腐ったものなんて食べてるのでそんなに小さいのだな…。申し訳ない、父の給料が微々たるもので…。

役者4 あなた、それは違うわ。大豆の腐ったのを購入していた私が悪いの。いやそうじゃないわ、大豆の腐ったのを売っ

ている食料店も悪いわ。なのであなたはなんにも悪くない。あなたは何も。

役者9 お前…。

役者5 なんだよこの夫婦はー！大豆の腐ったの話だけでこんなに…。まったく絵に描いたような幸せ夫婦だちくしょー。
行っってくるねー！

役者5、役者8に辞書を渡して走り去る。

役者8 「今日の私」は、大切な事実を学んだ。失って初めて気づく日常の光景って奴だ。本や歌では知っていたが、自分で経験して初めて身に沁みた。見るもの聞くもの、何気ない今を大切にしよう。そう心に刻みつけていたのに、

役者1、やってきて、

役者1 おはよう。

役者8 ……お、おはよう。

役者1 いやあ、どうしてこんなに良く会うんだらうね。不思議だ。今朝は空を見上げてね、気づいたんだ。いつもは電信柱があつて、その電線などで休憩していた、あの、平和の象徴らしき動物が居なくなってるんだ。平和の象徴らしき動物が居ないこの町は、はつきり言って平和じゃない。君はどう思う？

役者8 (ハコリ)。

役者1 また今晚会える気がしない？

役者1、去る。

役者8 もうヤダ…。消えて欲しくない人間やモノは消えるのに、一番消えて欲しい人間が消えない。悔しい。悔しいし、この気持ちはんなんだろう、許せない…。何が？私が？

役者2、やってくる。

役者2 おはよう。

役者8 …ああ、おはよう…。(涙ぐむ)。

役者2 どうしたの？

役者8 なんでもない…。

役者2 そう、うん、うれしいわよね。だって今日で試験終わりなものね。いよいよ夏の休日よ。うれしいわ。

役者8 あれ？なにやら口調が…、

役者2 え？

役者8 あ、ううん。

役者2 ねえ、この大腿部の辺り、筋肉痛じゃありません？

役者8 大腿部？

役者2 なせでしょう、昨日以来、どうもこの辺りが、

役者8 あ、それ多分、私のせいだ。

役者2 え、大腿部の筋肉痛があなたにどう繋がるの？

役者8 それは言えないけど、でも今日は大丈夫。今日はね、楽に腰を…あ…、

役者2 え？

役者8 うーん、腰を、下ろして、それを、支える為の物が、その、

役者2 は？

学校のチャイム。

役者8 あー…、

皆口々に「おはよう」などと叫んでやってくる。

役者8、辞書を役者6に。

役者6 昨日より今日の方が辛い、疲労が蓄積されているので。「私」、つまり「高校生の私達」には、一番辛いタイムが始まる。

役者2 あーあ、最後生物っていじめだわ。私生物だけは苦手なの。

役者6 そういう奴に限定して…、あれ？

役者2 ん？

役者6 ねえ？…名前

役者2 ん？

役者6 …名前が、

役者2 名前？

役者6 ごめん、名前が出てこなくて、急に。

役者2 私の？

役者6 うん。

役者2 私の…、名前？

役者2、去ろうとする。

役者6 あー！ごめん、いい！いい！名前なんてどうでもいいわ。ごめん。

役者2 (戻り) なに？

役者6 あなたは、「学級委員」。うん。

役者2 大丈夫？

役者6 うん。うん。

役者9、やって来て、

役者9 ガラガラ。

役者2 …え？なんで？

役者9 ん？

役者2 あ、起立、礼、着席。

皆、空気椅子状態。

役者9 えー、今日は生物の先生が来ておりませんので、私が試験を、仕切る役割である。さっそくであるが、答えを記し入れる為の用紙を配りたい。

役者9、指を舐めながら、答えを記し入れる為の用紙を一枚一枚配って行く。
うなだれる学生達。

役者6 ごめんね、みんな、ごめん…。

役者2 何が？

役者6 別の名称が脳裏に浮遊しなくて私…、

役者2 何の話？

役者9 はい、じゃあ始め！はい、終わり！集めて行くぞー。

役者9、指を舐めながら、答えを記し入れる為の用紙を一枚一枚集めていく。

役者6 は、早く…、早く…。

役者2 起立！

役者9 えー、明日は終業式である。通知表を持ってくるので楽しみにして下さい。

皆、安堵の声を上げ立ちあがる。

役者2 礼。

役者9、下がる。

皆、役者7を見る。

役者7 …ん？

皆 「あ、ううん…」という素振りて去る。

役者6、役者4に辞書を渡して去る。

役者4 ヌキオ…、

役者7 ん？

役者4 昨日の話だけど…、

役者7 なんだつけ？

役者4 ヌキオ、実は海の賊じゃないって話…。

役者7 ああ…。

役者4 ヌキオ、悩みの種があつたら、言つてね。私で良ければ、話聞くとよ。

役者7 (うつむく)。

役者4 私でよければ。

役者7 …あんね、…オヤジが、昨日、海に出たまま、戻つて来ないって、決定したのね。

役者4 …え？

役者7 つまりね、オヤジ、死んだの。

役者4 …うん。

役者7 そういう訳なんで、自分は今もう海の賊じゃないんで、てな訳で、もう自分は海には出ないんで、…うん。

役者4 …ユキオ。

役者7 自分の夢は、海の賊の王になる、つてものだったじゃんね。でも、それも海のもずくに消えたんで、うん。

役者4 も、も屑。

役者7 …ん？

役者4 ううん…。

役者7 ああ、も屑。

役者4 あ、うん。

役者7 もずくはあれだ、フクロウみたいな奴だね。

役者4 …フクロウ？

役者7 じゃあまた明日ね。

役者7、笑顔を残して去るが、すぐ戻つて来て、

役者7 間違えた。

役者4 え？

役者7 それミミズクだ。

役者4 あ、ああ…。

役者7、去る。

役者4 「ユキオ」はやつぱり「海の賊」だった。けど、父親が亡くなった昨日を節目に「遺族」になった。

役者8、やつてきてテーブルを拭く仕草。

役者8 なんで？なんでそんな状況になつてまう？

役者4 実は…、私の責任でありまして、

役者8 ん？

役者4 私が昨日…、いや、まあ言つても信じて貰えない恐れを多分に含んでるんで、ほつておいて下さい。

役者8 うん、まあ無理して言わんでもいいけどさ、でも貯め込むくらいなら話聞くとよ。

役者4 先輩…。

役者8 閉店後にでも飲もまい。その子も誘って。

役者8、鎖鎌を取り出す。

役者4 店長！、山賊また来ました！。警察呼んで下さい。

役者8 冗談冗談（仕舞う）。

役者3、やってきて、

役者3 どうした？

役者8 あ、なんでもありません。

役者3 お前らなに？店長の私になにやら秘密があるの？

役者8 え、なんで？

役者3 だっていつも呼ばれるだけで、なんにも教えてくれないじゃん。

役者8 ああ。

役者3 それにお前さ、敬語で話してよ。店長なんだよ。

役者8 あ、はい。オッソー。

役者8、去る。

役者3 お前は、あんな風にならないでよ。御苦労さま。

役者4 あ、はい。あ、先輩…！

役者8に呼びかけるが、もう居ない。

役者4 あー、しまった…。

役者3 ん？どうした？

役者4 あ、いえ…、

役者3 気をつけてな。

役者4 …あ、じゃあ…、

役者3 ん？

役者4 送って、貰いたいの…。

役者3 …なに？

役者4 あーじよ、冗談でありましたーさようなら！

役者3 …。

役者3、下がる。

役者4、走り去りながら役者5に辞書を渡す。

役者5 しまった…、変な空気になってしまった。ほらみろ、敬語が使用出来ないのはいろいろ不便じゃないのよ。店長に
変な思い込みされたらどうしよう…。あー、明日行くのヤダなあ…。あ、まずい、勢いで歩いて来たら、「いつもの道」
に来てしまった。

役者1、出てきて、

役者1 やあ、やっぱり会えたね。毎日遅くまで大変だ。送りましょう、家まで。

役者5 そ、そんな結構！結構結構コケコッコー！

役者1 それはなんだっけ…、なんの鳴きマネ？なんだっけ？

役者5 し、失礼……！！

役者5、走り出す。

役者1 また明日！。

役者1、手を振って去る。

役者5 ちつくしよー！全然上手く話せん。言いたいように言えん。なんで言いたくもないダジャレ言わにやならんのだ。
もうヤダもおー！

役者5、役者2に辞書を渡して去る。

役者2は、役者4と電話で話している。

役者4 えー、じゃあなんなんだそいつ？

役者2 名前聞いてみるのは？で、その名前を狙い撃ちして消去。

役者4 えー、そんな聞く勇氣あるの？

役者1、紙の裏にシルエツトで現れて、

役者1 こんにちは。

役者2、モジモジしながら、

役者2 あのお…？

役者1 わ、驚いた！君が僕に話しを投げてくるなんて。天変地異の前触れだね。

役者2 名前を…、

役者1 え？

役者2 あなたの、名前を、教えて下さい。

役者1 しょうがない、そこまで僕が気になるならいいよ、僕の…名前は…、

役者2 ちよおマジでキモイ……！！

役者4 ほらそうなるでしょ？

役者2 無理無理無理！絶対無理だわ…。

役者4 そういっつのは余計調子に乗っちゃって、ややくしくなるだけ。

役者2 うーん、じゃあどうしたらいい？

役者4 それ明白にあんたの行動を把握して、待ち伏せしてるんだよ。だったら、「まちぶせ」だよ。

役者2 え？

役者4 「ま」「ち」「ぶ」「せ」。

役者2 エー大丈夫？四つも一気に無くなって…。

役者4 イヤなんでしょ？だったら思い切らなきや。だいたい文字なんてね、実はこんなに要らないものなのよ。

役者2 え？

役者4 だって今日なに困った？

役者2 うーん…、あ、そうだ、昨日言ってた、腰を低くしても支えてくれる便利な物、あれがどうしても思い出せない。

あれ、なんて言ってたっけ？

役者4 ああ、「チェアー」？

役者2 そうだ「チェアー」だ！どうして「チェアー」が出てこないんだ私は…！

役者4 なんの為に義務教育で英語習ってるのよ？今役立てなくちや、税金の無駄。

役者2 日本語私辞典って言ってるのに英語…。まあでもしょうがない、うん、初めて英語が役に立ちそう！

役者4 まだまだ文字はあるんだ、大丈夫。私だったらね、さらに「ぎぶり」「けむし」も削るね。

役者2 ゴキブリ、毛虫？

役者4 お願いね、「ぎぶり」アンド毛虫。こういうのは思い切りよ。

役者2 う、うん、承知した…。よし、やってみる！

役者4、去る。

役者2 私は思い切って、「ま」「ち」「ぶ」「せ」「こ」「き」「り」「け」「む」「し」の十文字を消した。これで明日もあいつに会ったら…、一体奴は何者なのだ。…ほらね、台詞がだんだん時代劇臭くなっていくでしょ？

あ	い	う	え	お
■	■	く	■	こ
さ	■	■	■	そ
た	■	つ	て	■
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
■	み	■	め	も
や	■	ゆ	■	よ
ら	■	る	れ	ろ
わ	■	を	■	ん
が	ぎ	ぐ	げ	■
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
ば	び	■	べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

役者2、辞書を閉じる。

音楽。

巨大な五十音表から「ま」「ち」「ぶ」「せ」「こ」「き」「り」「け」「む」「し」の文字が切り抜かれハラリと落ちる。

私の辞書からは今、「す」と「か」「ま」「ち」「ぶ」「せ」「こ」「き」「り」「け」「む」「し」の十二文字が無い。

役者5、やってきて辞書を受け取る。

目覚まし時計の音。

【四日目】

役者5 おはよう！朝「シー」は目を開いて、「シー」は「シー」である、そう思う！我が家の「シーの部屋」を出て、皆が集う部屋に下る。おはよう！母、おはよう！

役者4、やってくる。少し元気がない。

役者4 おはよう…。

役者5 母…

役者4 …ううん、なんでもない。さあ、朝の米、食べなさい。

役者5 ひどくエネルギーのない母を見て、我が家の大事なものが削除されているのに合点がいった。
役者4 いつもの慣れね、三つお皿を並べてもうたわ…。
役者5 母、エネルギー発散よ、ミー、良い方法思いついたの。良く耳をミーの方にやっててね。
役者4 イイ方法？
役者5 もう一個、呼び名があるの。あの辺、見てて。
役者4 あの辺？
役者5 (息を吸って) パパー！
役者4 パパ？

役者9、飛びきりの笑顔でやってくる。

役者9 やあ、パパだよ！
役者4 パパー！
役者9 おはよう、母。
役者5 ここでの母は、パパの母親って意味ではない。
役者4 パパ、朝の米、食べて。
役者9 ああ、食べるよ。この朝もパパの好みの魚類があるんだよね？
役者5 パパの好みの魚類？
役者9 猿にはバナナがあるように、パパには、なんだい？
役者4 うふふ…。
役者5 お米、お湯に浸った味噌、くたびれた野菜、焼いた魚類…、
役者9 こ、これは、この魚類はなんだい？
役者4 あなた悪い！あなたの好みの魚類は、もう絶滅ったのよ。
役者9 なんだって？！パパの好みの魚類は、もう絶滅ったのだって？！いつのあいだにこの天体の風土はそんなに悪くな
ったのだ。もう再びパパの好みの魚類が食べられないなんて…。
役者5 ミーが悪いの、ミーが「バ」アンド奈良にいる奴なので、別名が脳に浮遊されなくて、
役者4 あなたに非は無いわ、悪いのは母の方よ。母が「バ」アンド奈良にいる奴なので、あなたも「バ」アンド奈良にい
る奴なの。
役者9 いや、「バ」アンド奈良にいる奴はパパの方だ。母にも我が子にも非はない。うん、もうパパは絶滅った魚類は食
べない。魚類は、もう絶対に食べない。以降、パパは、肉を食う。朝だって肉を食う！
役者4 あなた！
役者9 はっはっはっは、母。
役者5 そうだ、ミーには、パパは「パパ」だが、母に映っているのは「あなた」。ミーには、やがてパパがパパじゃなくな
っても…、母には「あなた」が残るんだ。
役者4 あなた！
役者5 それではパパアンド母、もう学校に行く時刻なので、
役者9 我が子よ。野郎には防衛を怠るなよ。
役者5 言われなくてももう頑張ってるんだよ、行って来る！
役者9と4、下がり、
役者5は辞書を役者8に。

役者8 文字削除によって、我が家はどんどん辛くなっていく。それもこれも奴をミーのワールド外へ追放が望みの為、是
非もない。ミーは歩く、手を振って、我が辞典に降服の文字は無い！敗北なんてあるはずない！

役者1、やってくる。

役者1 おはよう。

役者8 …。

役者1 おはよう。

役者8 …あの！

役者1 わ、仰天。あなたの方が対話を試みてくるなんて。

役者8 もう止めて下さい。

役者1 何を？

役者8 何をじゃなくて。

役者1 え？

役者8 迷惑なの。

役者1 何が？

役者8 なぜここにいつも？

役者1 なぜって…？

役者8 だって変じゃない！あなたはもうここで、ミーの行く手に居れないはずなのに、なぜ居るの？

役者1 この朝はね、いろんなモノが無くなっているんだ。昨日(さくじつ)ここに絶対にあったはずの、その話題も僕は

昨日(さくじつ)投げたはずなのに、それがどのような物でどんな意味を持っていた物なのやら、それさえも出てこないでいるんだ。ねえ、あなたはどう思っているのこの事態について。これは非常に大変な事態なんだ。ねえ、あなたは

役者8 もおうるさーい！ーもお止めてお願い！

役者8、猛ダツシユで逃げる。

役者1 …。

役者1、去る。

役者8 もうヤダ…、なぜなの？なぜなのよ…、居なくなつてよ。

役者2、やってくる。

役者2 おっはよ。

役者8 おはよ…。

役者2 これでシ・エンドだね。

役者8 えっ！

役者2 授業。

役者8 ああ…。

役者2 あーあ、でも退屈。長くない？夏。

役者8 そお？

役者2 長いって思っつ。

役者8 そっ？

役者2 だってさ、何やっても暑くてさ、皮膚もべた付く、梅雨もくる、濡れる、どれもヤダわ。

役者8 文句のみ。

役者2 だって夏はイヤよ。

学校のいつものアレはもう無い。
なので始業の合図は役者が鼻歌で言うことにする。

役者8 あー、腿が…、

役者8、辞書を役者6に。

役者6 めげない！

役者6、屈伸する。

皆口々に「おはよう」と言いながら屈伸する。

役者9、やってくる。

役者9 ガラガラ。

役者2 あ、ねえ…、

役者6 ん？

役者2 あれ…？これより言わねばならない名称が、その、

役者6 え？

役者9 はい、始めるぞ。

役者2 えー…、

役者9 ん、組の委員？

役者6 ああ(役者2を見る)…。

役者2 あ、はい、えー、皆さん立って下さい。礼、続いて…、

役者9 ん？どうなされた？

役者2 あ、あの…あ！

役者9 ん？

役者2 あ、ティー…、うーん、そのお、あなたは、何者？

役者9 …は？

役者2 いや、えー、あ、立った状態では、ダメだろうね？

役者9 …どういう意味？

役者2 その、立った状態で…、

役者9 立った状態では、ダメだよ、そんなの…。

役者2 でも、この組の人間は、皆、立った状態がいいそうなんです。実にあなたには悪い、そう思っている。

役者9 そう…、そうなの…。いや、実は昨今、僕はいろいろ思っているね、それはね、僕は皆さんの目に、どのよう映っているのだろう。それが非常に悩みの種だった。僕は実際問題、このワークに似合っているの？このワークは、僕のワークなの？これまで同様、みんなの担任でいいの？どうなの？…そんな風に思いながら、いよいよこの日に至ったのである。僕が悩んだ答えは…、このワークを、辞める心組みに至った。これによって僕は、みなさんの目には、ただのおじさんに見えるはず。これで僕は、ただのおじさん。どうも悪い。ただのおじさんで悪い！

役者9、深々と頭を下げる。

役者2 おじさん…、ズが低いわ。

役者9 はい…。

役者2 おじさんは、悪くない。

役者9 え？

役者2 おじさんは、何も悪くないわ。悪いのは、組の委員である……シー。
役者6 組の委員……。

役者2 さあ、組員の皆さん、このおじさんに、土下座。

役者9 いやいやいや！土下座なんていいよ。土下座なんて……、いつものようにやってくれたら、それでいいんだ……。
役者2 いつものように……、はい、じゃあ組員の皆さん、いつものように、はい。

皆、空気椅子。

役者9 皆さん……、礼を言う。こんなおじさんの為に、こんな……。

役者9、涙を拭く。

役者6 礼はいいよおじさん、早く、早く……。

役者9 あ、はい。えー、それでは、いつものように、始めよう。えー、この日以降、夏の間、皆さんは学校に来なくてもイイ日が続く。そのあいだ、プールや、海など、みんな行くように思う。痛手や、事故など無いように、やってもraithたい。おじさんにはもう無いが、皆さんには未来がある。くれぐれも変な夢を見ないように。では、五つのランクがついたものを配る。

役者9、指を舐めながら、通知表を一枚一枚配って行く。
うなだれる生徒達。

役者6 あー、大事なランクの表が……。ツバだ、今夜は唾を削除だ、絶対。

「っ」「ば」が消える。

あ	い	う	え	お
■	■	く	■	こ
さ	■	■	■	そ
た	■	■	て	■
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
■	み	■	め	も
や	■	ゆ	■	よ
ら	■	る	れ	ろ
わ	■	を	■	ん
が	ぎ	ぐ	げ	■
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
だ	ぢ	づ	で	ど
■	び	■	べ	ぼ
ば	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

役者9、指がサラサラになり違和感を感じるが、なんとか配り終わり。

役者9 さて、みんなあるね？無い子は居ないね。

役者6 はいーはいー！

役者9 ではおじさんなので、オヤジギャグを話そう。冷蔵庫のわさびが言う、「わ、さびー」。
役者2 立てー！

皆、安堵の声。

役者2 おじさんに、礼！

役者9 それではみんな、お大事に！

役者9、下がる。

役者7 組員のみんな、イイ？

皆 「なに？」と見る。

役者7 えー、この日以降、我々は高校に来なくてもいい日じゃんね。俺、もう俺に嘘言えない。てな具合で、俺海行くわ。俺はどっやら、海で育たれた野郎。海で育たれた野郎は海に行く。それが単独でも海に行く。だもんでみんな、もう会えない。みんなどうぞ、幸福で。

皆 去る。

役者6も役者4に辞書を渡して去る。

役者7 いろいろ、悪いね。

役者4 高校、やめるの？

役者7 …うん。

役者4 海の賊の王になるの？

役者7 うん、オヤジの夢だもんね。

役者4 ねえ、今夜ミーの働く主にアルコールなどを飲んで騒ぐ店舗に、来ない？並んで話題を投げ合おうよ。

役者7 …うん。いいよ。並んで話題を投げ合う。

役者8、やってきて、

役者8 はーい、ビール！

役者4 あ、

役者4、お辞儀。

役者8 いいのいいの、さ、飲もおー持て持て、この状態で。

役者4と役者8、「ビールジョッキ」と言われていた物を持つ（マイム）。

役者8 じゃあ、海の賊の未来の王に、えー…この幅のあるビードロのいれものを、同時に鳴るように合わせー！

役者4 …お、おー！

役者7は何もしない。

役者8 海の賊？どうなされた？

役者7 俺、アルコール飲めないんで。

役者4 あ、そっだ、我々は高校の…

役者8 この朴念仁め！

役者4 朴念仁…？

役者8 高校で習わないの？朴念仁。心の根がタダものではない人間て意味。

役者4 心の根がタダものではない？

役者7 あんな、朴念仁ていうのは、長芋の同類だ。

役者4 長芋？

役者7 うん。じゃないや、それジネンジヨだ。

役者4 自然薯？

役者7 長芋。

役者8 そんな話題はもういいんだ。おい海の賊、この店舗な、日々山賊が来るんだよ？

役者7 なに？山賊が？

役者8 いがみ合うなよ。

役者7 いがみ合わねえよ、海の賊はな、山賊なんて目じゃねえ。

役者8 言いやがるなこの野郎。

役者8、いつものアレを取り出すが木の棒だ。

役者4 え？

役者7 なに？

役者8 あ…、

役者7 え、あんたが山賊？

役者8 冗談冗談。

役者8、慌てて仕舞うが、間違えて横の「を」の字を突き破ってしまった。

役者8 !!!

役者7 (仕切り直し) え、あんたが山賊？

役者8 冗談冗談(そのまま押し込んで仕舞う)。

役者7 驚いた、なぜならおじさんじゃん。

役者8 おじさんじゃねえよ！女だ。

役者7 あ、おじさんの逆だ。

役者8 おじさんの逆？

役者7 おじさんの女。

役者8 ニューハーフじゃねえよ！山賊だよ。

役者7 三十六？

役者8 山賊だよ。なんで三十六なんだ？どういう耳の構造だてめえ。

役者7 お、やんの？

役者8 やろうじゃん。

役者7 おー、やるの？

役者8 やるならやるよ。

役者7 俺もあんたやるならやるよ？

役者8 おー、やる？

役者7 やるよお？

役者8 やるっ？

役者7 やるよお？

役者8 やるっ？

役者7 やるっ？

二人 うーん…。

役者4 やれよ！

役者3 やっつてきて。

役者3 ねえねえ、店舗内で揉めるのやめて。
役者8 なあ店舗のあるじ、この店舗、どのあいだにこの状態飲みなのさ？
役者3 うん、俺もその点には困惑なんだよ、この状態以来誰も来なくてな。
役者4 …悪い。
役者3 なんでユー？
役者4 いや、悪いなあ思っている。
役者7 じゃあ、俺行くわ。
役者4 え、もっ？
役者7 ああ。夜は風雨が来る。賊のアンテナだ。
役者8 あ、じゃあ俺もそろそろ。
役者7 あんた女だろ。俺なんて言うのやめろ。
役者8 なんだ？やんの？
役者7 やるう？
役者8 やるならやるよ。
役者7 おー、やるう？
二人 うーん。
役者4 やれよ！
役者3 皆、もう遅い時刻だ、早く家に行くがいい。現在のこの辺は怖い。
役者7 じゃあ送ろう。
役者8 あ、悪いね。
役者7 あんた山賊だろ？
役者8 なんだ？
役者7 やんの？
二人 うーん。
役者4 もうやれよ！

と云いながら去る役者8と7。

役者4は、役者8を呼び止めたいが、

役者4 あ…、あー、えー、あのお、ミーがこの店舗で働く以前に、もうこの店舗で働いていた女ー！さらに年齢も上のー！
…あー、居なくなる。
役者3 いいよ、送るぞ…。
役者4 え…？
役者3 いや…、そう思うなら、送るぞ…。
役者4 あ、いえ…、え？
役者3 あ…、いや、えー、
役者4 いや、いやいや！
役者3 あん？
役者4 あ、あ…、では、頼んだ…。
役者3 その物言いが…。
役者4 あ、いや…、悪い…。

役者5もやってきて、二人で帰路に。

役者5 非常に、なんて言うのだ、これは面倒な状態だ…、「ミー」は現在

役者4 「学業の間に働くミー」アンド

役者5 「家路にあるミー」が半々の状態である。内面の憩いが無いので疲労が…

役者3 はじめに誕生の家で寝てるの？

役者5 え？…はじめに誕生…？

役者4 …ああ、はい。はじめに誕生の家で寝てる。

役者3 そう。俺の誕生の家は…、えー、

役者4 はい？

役者3 その…、日本の…、国の…、その…、いや、もうこの世には無いようだ。

役者5 日本の国のそれが無いのはどうなの？現在日本はどんな状態なんだ…？

役者4 あるじ、悪い…。

役者3 なんでユーが？

役者1、やってきて、

役者1 やあ！

役者5 ……

役者1 今夜もイイ日だね。十二時越えてもイイ日であるように僕は祈るよ。でも夜空がこんなにも暗いのはなぜなんだろ
う。おそろく普段我々の頭上にあるはずのものがないんだね。じゃあ。

役者1、去る。

役者5 ……なんだアレ！…あるじが横に居ても平然で話題投げて来る…。不能！思いが不能！

役者3 どうなされた？

役者5 あ、いや、えー、

役者3 誰ぞが居たの？

役者5 え…？

役者4 いや、あの野郎は、その…

役者3 …野郎？

役者4 はは、あはは…、

役者3 あ、そお…、悪いね。

役者4 え？

役者3 じゃあ…。

役者4 …は？

役者3、去る。

役者4 あ、あるじー！（追いかけていく）

役者5 なんだこの流れは…、

役者6、電話先に現れて、

役者6 うん、で？好意抱いているの？

役者2 誰が?!

役者6 あんた。

役者2 なんですよ。

役者6 じゃあ、そのあるじの方が。

役者2 ヤメテよ。

役者6 残念。

役者2 笑わないで。

役者6 でも疑問だよ、その野郎、なんで主には見えないの？

役者2 もうヤダ。殺そう。

役者6 コラー！犯罪に手染めるな。

役者2 悪い…。

役者6 うーん、では「や」「ろ」「う」削除だな。

役者2 「や」「ろ」「う」？

役者6 念の為、「お」も削除。

役者2 えー、母音？母音は怖い。

役者6 ああ、いい？要は、あんたがその物思う、そこで初めてなくなるのよ。

役者2 ん？

役者6 じゃあ「め」が無くなる例挙げるよ。

役者2 う、うん。

役者6 我々は普段「目」の存在思いながら物見てはいないの。「目」がある、故に物が見える。なんてわざわざ思わない
だろ？

役者2 うん？

役者6 あんたが目の存在思う、それゆえ「目」の存在が無い現状得る。

役者2 うん…。

役者6 なのであなたにその野郎が、「野郎」含んだ人間に思えたら、居なくなるのよ。

役者2 「野郎」含んだ人間…？

役者6 あなたには、「パパ」は「野郎」ではないんだろ？

役者2 ああ、なるほど！御意。思う！

役者6 あ、更に、

役者2 えー、増える？これ以上は話そうにも、もうミリーの頭脳が…、

役者6 「が」「め」「ら」。

役者2 ガメラ？

役者6 あ、そうだ。

役者2 「あそつだ」?!

役者6 「み」「ぎ」「て」

役者2 右手？

役者6 うん。

役者2 …右手？

役者6 へこたれんなよー！

役者2 …「み」「ぎ」「て」…、右手…。右手思う、そこで初めて…無くなる？

役者2、自分の右手を見る。

音楽

私の辞典から「す」と「か」「ま」「ち」「せ」「じ」「き」「り」「ひ」「む」「て」「う」「は」「や」「ろ」「う」「お」が「め」「じ」「も」「そ」「う」「だ」「み」「き」「つ」「

の文字が消えた…。

	い		え	
		く		こ
さ				
た				
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ	ふ	へ	ほ
				も
		ゆ		よ
		る	れ	
わ		を		ん
		ぐ	げ	
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
	ち	つ	で	ど
	び		べ	ぼ
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

役者5、やってきて辞書を受け取る。
いつもの音。

【五日目】

役者5 はい！日に日に、字、無い。でも、パパー！

役者9 パパだよ。

役者5 母ー！

役者4 なに？

役者9と役者4、にこやかにやって来る。

役者5 居る！

役者4 さ、ほれ、パパ、肉、食え。

役者9 パパ、肉、食えない…。

役者4 なぜ？

役者5 え、パパ？なぜ？肉、食え。

役者9 パパ、胃、痛い。

役者4 え？

役者5 パパ、何食えるの？

役者4 パパ、芋、食え。

役者9 いい、芋、イイ。

役者4 でも、パパ…。

役者5 パパ、ひもしい。悪い…。

役者9 (役者5の頭をポンポンと撫でて) でも、パパね、イイ名、言える。

役者4 イイ、名？

役者9 はい。

役者5 え、何？

役者9 サーモン！！

役者4 サーモン！？

役者5 パパ！

役者4 パパー！

役者9 は、は、は、サーモン！

役者4 パパー、良くて！

役者5 いいぞ、パパ！

役者9 どんなもんでい！

役者4 ささ、パパ、サーモン食え！

役者9 パパ、ベイクトサーモン、食べるー！
役者5 パパ、母、では、行くー！

役者5、家を出て走るが、すぐに立ち止まる。
役者8、上手から泣きながらやってくる。見ると手には辞書を持っている。

役者8 パパの、母の、良い家。ネーんえーん。
役者5 でもいずこに、行くのよ…？

役者1、役者8の前方に現れて

役者1 はい布。

役者5・8 なんてよー…！

役者1、布を拾い去る。

役者5 ぐぐぐぐ、なぜ居る…？

役者8 許さん、永遠に…！

役者5・8、右手で拳を作る。それに気づいて、パツと手を隠す。
役者2と6、上手から歩いてくる。
手には辞書を持っていて、

役者2 家、草花、田んぼ、

役者6 服、ズボン、ボタン、本、

役者2 昼、夜、犬、

役者3 (声) わんわん。

役者6 犬？

二人、下手に去っていく。

役者5 ねえ？

役者8 はい？

役者5 ユー…は、何者？

役者8 人間…？

役者5 人間で？

役者8 人間で…、

役者5 ユーは、何者で…、(胸を指し)ここに居るのは…、なに？

役者8 ここ？

役者5 本人の、(役者8を指さし)他人の、差異…？は…、なに？

役者8 サイ？

役者5 差異。

役者8 …(頭に動物を思い浮かべる)。

役者5 いえいえ。

役者8 *(手にペンを持つ仕草で)サイン？

役者6 * (声) サイン?
役者5 んー (腕組み)。

役者2と6、再びやってきて、

役者6 ペン？

役者2 ノーノー、本人の、本人で居る、サイン。

役者6 本人の、本人で居る、サイン？

役者2 本人の本人で居るサインは…、なんなの？

役者6 (身体を確かめる) …。

役者2 ユーは、何者で…、

役者5 ユーは…、

役者8 ユーは…、

役者2 本物の、本体は…、

役者6 この人間、この皮膚、この肉体…、

役者2 枠内に、居る？

役者6 肉体の、枠…、

役者5 本体は…、

役者8 本人は…、

役者2 他人は…、

役者6 どんな人間で… (去る)、

役者5 本人の、本人で居るサインは… (去る)、

役者8 本人は… (去る)、

役者2 他人は？ (去る)

誰も居なくなつた。

しばしの間。

役者1がやってきて、

役者1 要るものは無くなる。居ないモノは、居なくなれない。(五十音表を見上げ) いずれ、何も無くなる。何者も、居なくなる。

役者1、ナイフを出して、

役者1 刃物。

「」を切り落とす。

役者1 居ないモノは、居なくなれない。はい。

去る。

と、役者5から順に上手から下手に歩いて行く。
世界にまだ残っている物を確認するように、

役者5 エビ。

役者9 はい？

役者7 えー…僕は、えー、フレンドで

役者9 …。

役者7 ユーの、子供の、

役者9 ユー？

役者7 えー…、僕は、賊で、

役者9 (切る)ふー。

役者7 …。

役者9 (役者4を見て)許さんぞ、パパは、賊などは、許さん。

役者4 はい…。

役者9、去る。

役者4 (ここそこ)ぴぷぽぽ(電話を掛ける)。ぷるるるる。

役者7 (意気消沈したまま)はい。

役者4 賊？

役者7 へいへーい！パパ出るのびびるぜえー！

役者4 悪い…。

役者7 へいへーい！

役者4 賊よ。

役者7 はい。

役者4 行くなよ、最北端…。

役者7 え？

役者4 ねえ賊、賊は、なんの賊なのよ？

役者7 …。

役者4 なんて、船で行くのよ？

役者7 …。

役者4 船要る？何も、無いのに。

役者7 はい。

役者4 行くなよ。船、良くないよ。

役者7 いえ、でも行け。

役者4 賊…。

役者7 僕は、賊ぞ。

役者4 なんの賊よ？言えよ。

役者3 ワンワン。

役者4 ん？

役者3 わんわん。

役者4 ん、なに？

役者7 犬。

役者4 はい…。

役者7 家の犬。

役者4 はい。

役者7 ジョン。

役者4 はい、で？

役者7 ジョンも行くぜ。

役者6 揺れに弱い。

役者3 (声) げぼげぼげぼ。

役者6 ん？

役者7 (声) 僕は！僕は！

役者6、表を見上げると「げ」と「ほ」が落とされた。

役者3 (声) ワン！

役者4 賊———最北端での人体は、震えるぞー！服は要るよー！塀も、要るぞー！ユーのはんばもん！なぜに最北

端なのよー、最南端でも良いのにー！賊居なくなるので、山賊の世になるぞー？いいのねー？愚鈍な者ー！ぐどーん、

ぐどーん…。えぐえぐ…。

役者4と6、去る。

役者2と5、やってきて受話器を耳に

役者2 えぐえぐ…。

役者5 泣くな。賊の意欲なのよ。

役者2 賊の、愚図…。

役者5 で？夜は、居たの？

役者2 え？

役者5 例の、人間。

役者2 居たのよ。

役者5 へえ、良くも居れたね。

役者2 船の奴隷にでもなれよな。

役者5 船の？

役者2 奴隷。

影で役者1が役者7に、紐で叩かれている。

役者7 パン！

役者1 痛い紐で、

役者7 パン！

消える。

役者5 無いわ…。

役者2 無いわね…、世に奴隷自体居ないもんね。

役者5 居ないモノは、居なくなれないもんね。

役者2 居ないモノは、居なくなれない？

役者5 では、「ど」「れ」「ど」。

「ど」「れ」が消されていく。

役者2 (表を見上げて)…「ど」、なくなる？

役者5 「ど」「ど」なくなる。

役者2 居なくなる…。
 役者5 家、頬、胃、肺、恋、も
 役者2 なくなる。居なくなる…。
 役者5 「居なくなる」も、
 役者2 なくなる？
 役者5 「居なくなる」、も、「無くなる」、は？
 役者2 居る…？
 役者5 も、無くなる、は、居なくなる。も、無くなる。は…、
 役者2 ねえ…？
 役者5 なに？
 役者2 本人の、本人でいるサインは、なんなの？
 役者5 「皮膚」、「肉体」…、本人の、枠。

「ぶ」「い」が消えた。
役者5、去る。

役者2 本人は、他人は…？

役者2、受話器を降ろす。
音楽。

私の辞書から「す」と「か」「ま」「ち」「ぶ」「せ」「じ」「き」「り」「け」「む」「し」「う」
 「ば」「や」「ろ」「う」「お」「が」「め」「ら」「ら」「あ」「そ」「う」「だ」「み」「き」「て」「を」
 「つ」「ど」「れ」「い」「ぶ」が消えている。

			え	
		く		こ
さ				
た				
な	に	ぬ	ね	の
は	ひ		へ	ほ
				も
			ゆ	よ
			る	
わ				ん
			ぐ	
ざ	じ	ず	ぜ	ぞ
	ち		で	
	び		べ	
ぱ	ぴ	ぷ	ぺ	ぽ

【六日目】

役者2 (去りながら、時を刻む)ぶぶぶぶぶぶ。
 役者5 本人も、他人も、「シ」も、無くなる、日。
 役者2 ぶぶぶぶぶ。
 役者8 「シ」は、減る「字」ではなく、
 役者4 何時、何分。
 役者2 ぶーん。
 役者5 の「シ」。
 役者1 鼻血ではなく。

「ち」落ちる。

皆 「シ」は

役者4 何年も何年も、

役者3 ぐんぐんぐんぐんぐんぐん

役者9 ノー！

役者7 弾く

役者1 夜

役者3 ぞくぞくぞくぞく

役者2 ぶぶぶぶぶぶ ぶん。

役者5 ひゅー

役者8 「シ」は

役者6 絶えなく

役者7 輪になる

役者2 捧ぐ

役者3 モノ

皆(役者4と5以外) 「シ」は、「シ」は

役者4、 出て来て見上げる。

役者4 変な日ね。

役者5 母。

役者4 なに？

役者5 パ。パ。は？

役者4 パ。パ。は、庭で

役者5 庭で？

役者4 野宿。

役者5 野宿？！

役者9、 やってくる。

役者9 パ。パ。は、草食べるよ。

役者5 パ。パ。！ノー！

役者4 パ。パ。は花も食べるのよ。

役者5 ノー！

役者4 タンポポ。

役者5 ほー(感心)。

役者9 でもね、花咲く庭も、ぐずぐずなのさ。

役者5 え？

役者9 子よ、花は、なぜ生える？

役者5 花は…

役者5、 土を想像したり、水を想像したりするけど出ない。

役者4 さき、パ。パ。、サーモン食べよ。

役者9 えー、パ。パ。は、サーモンは、火で、よく…

役者4 え？

役者9 火で、よく…
役者5 パパ、サーモン、火に、くべるよ。
役者9 火に、くべる！
役者4 ぼーん（サーモンを地面に投げた）。

家族三人、手をかざし火にあたる。

役者9 サーモン…。

役者5 …パパ、母、この世、悪くなるの、詫びる。

役者4も9も微笑み。

役者4 ねえ。パパ、火は、なぜ燃えるの？

役者9 油田。

役者5 油田！？

役者9 は、は、は、油田！

役者4 油田で、ホクホク。

役者9 ぱぱーん、ルビーの指輪！

役者4 ぼ。

役者5 母、頬、ピンク。

役者9 ルビーの、ペン！

役者4 ぼ。

役者9 ルビーの、瓶！

役者4 ぼ。

役者9 ルビーの、

役者4 ルビーはええわ。

役者9 …。

役者4 ルビーはバンバン。

役者9 …、パール！

役者4 パパ！

役者9 は、は、は、パールは首輪！パールはプルル！

役者5 パールパール！？

役者4 パパは、派手ね。

役者5 パパは、母は、なんでも、微笑んで、たくさん、無くなるのも、微笑んで、微笑んで、微笑んで、微笑んで…

役者4と9、去る。

役者5、歩きます。

役者8、入れ替わり出て来て、

役者8 微笑んで、微笑んで、

役者1も出て来て、「表」を見ている。

役者1 泣くな。ここには、たくさんの虫も、猫も、

役者8 許さん。

役者1 本人なのに？

役者8 変人。

役者1 えー…？

役者8 変人は他人。

役者1 ユーは、他人ではなく、

役者8 悪者。

役者1 なぜ悪者なの？

役者8 無くなる、何も。

役者1 ユーの業、なのに？

役者8 「何も無くなる」も、無くなる。

役者1 本人も他人も無くなるのでは？

役者8 困難なんぞ…、

「」が切られて行く。

役者1 「」無くなるよ。

役者8 子ではなくなるものなのよ。

役者1 子ではなく、なに？

役者8 子ではなく…、

「」落ちた。

役者8 殴る！

役者1 わ、パワーに頼る。

役者8 是非も無く。(構えて) もわんもわんもわんもわん…、

役者1 わ、波紋。

役者8 食え、波紋のパワー。

役者1 ヘルプ、ヘルプ。

役者6 「へ」！

役者2 変人、へんぴ、減る、下手、蛇…、

「へ」が消えた。

役者1 ループ！

役者1、逃げる。

皆 ぐるぐる、ぐるぐる…

「この日の最初に戻る。

役者5

ぶ。ぶ。ぶ。ぶーん。

役者4 (見上げて) 謎の日ね。

役者5 (「わ」わと) 母…？

役者4 なに…？

役者5 母！
役者4 なによ？
役者5 ねえ。パパは？
役者4 パパは、ルビーの庭で、
役者5 ルビーの庭？
役者4 パールのプール餌に…、
役者5 なに？
役者4 美女ナンパ。
役者5 パパ？！
役者9 (こちらには気づいてない様子で出て来て) は、は、は、美女の、美女に、は、は、は
役者5 パパ、母泣くぞ！
役者9 わ！
役者4 ええよええよ、パパも、美男。
役者5 母…。
役者9 母。
役者4 パン！
役者5 わ！母、頬、ビンタ。
役者9 母…詫びる。
役者4 デン(鍋を置く仕草)、食べな。
役者5 わ、なに？
役者4 鍋。
役者5 鍋？！
役者9 わ、草たくさん。
役者5 母、なに鍋？
役者4 山賊鍋。
役者5 母！
役者9 でも母…、
役者4 食え。匙。椀。
役者5 にんじん、にんにく、菜の花
役者9 肉は？
役者5 草ばんばん…(匙でかきまわす)、
役者9 山賊鍋なのに…、
役者4 ホルモン！
役者9 ホルモン?!
役者5 母！
役者4 ほ、ほ、ほ、ホルモン。
役者5 ・9 よくぞ、母！
役者4 のびのびの鼻。
役者5 母の山賊鍋、わくわく！
役者4 食え食え。
役者5 ・9 ずずず(匙で汁を飲む仕草)、
役者9 わさび…。

役者8と1、出てきて

役者8 ずずず。

役者1 (表を見上げている) 泣くな。昼に、日向で。

役者8 許さん。

役者1 ねえねえ、

役者8 (拳を握りしめ) グーで殴る。

役者1 「ぐ」(を指さし)、

役者2 軍人、殴る、探る、潜る…、

「ぐ」消える。

役者8 (手を開き) パーで叩く！

役者1 「た」。

役者2 たんぽぽの、綿も、たくさんの、種も…、

役者8 他人で…、クタクタ。

役者1 なので他人では…、

「た」が落ちた。

役者6、出て来て、

役者3 (声) ワンワン、

役者6 吠える、響く、夜。

役者3 (出て来て) わんわん。

役者6 猿？

役者3 え？

役者6 猿人？

役者7 ジョン？

役者3 わん。

役者7 わ、首輪ゆるゆる。

役者6 わ、賊！？

役者7 え？わ！ひゃひゃ。

役者6 え、なんで？！

役者7 日々、行方、無くなるぜよ。

役者6 詫びる…。

役者7 ヌー、なぜ詫びる？

役者6 悪者削除の日々で…。

役者7 山賊許さん。

役者6 山賊ではなく…、

役者7 山賊の国や。

役者3 わんわん。

役者7 食え。

役者3 ぱくぱく。

役者6 何？

役者7 ピザ。

役者6 ピザ？！

役者7 パンも食え。

それをぶち壊すように役者1が、「ぼ」を手で突き破った。
皆「ぼ」を見上げたまま、息が止まる。
役者9、静かに去る。

役者4 …。

役者5 母…。

役者4 …。

役者5 母…泣くな。母、泣くな。

役者2 「な」「く」なる。も「な」「く」なる。

「な」「く」、落ちた。

役者4、微笑む。

役者5 …母…

役者4 散歩…。

役者5、うなづき、二人は足踏み。

役者5 ぼ、ぼ、ポンプ。

役者2 ぶ。ぶ。ぶ。ぶーん。

役者4 「じ」は「じ」はね、

役者7 自然薯

役者5 よ、よ、

役者8 夜。

役者4 る、る、

役者1 「る」。

役者2 ルール、

役者6 寝る、

役者5 昼、

役者4 春、

役者8 猿、

「る」が落ちた。

役者5 さ、さ、

役者4 ささくえ。

役者5 餌。

役者3 ワン！

役者7 ジョンの、餌。

役者1 「え」。

役者2 蠅、江ノ電、エデンの庭

「え」消える。

役者4 さ、散歩。

皆。ふ。ふ。ふ。ふ。(時を刻む音)

以降ずっと、誰かが「ふ。ふ。ふ。」と言っている。

役者7 全然

役者4 事前に、

役者5 電話は、

役者7 出んわ(受話器を降ろす)。

「で」「せ」「落ちる。」

役者4 「じ」は、「じ」はね、

役者8 日に日に、

役者5 干物。

役者6 は？

役者2 肘、紐、火、比喩

「ひ」落ちる。

役者1 日本人は、

「私」達 のほほん、

役者3 羽根。

役者9 ゆんゆん、

「ゆ」

「私」達 ネンネーん♪(ころりよー)

「ね」

「私」達 ーん…

役者9 ベンベンベン。

「べ」

役者1 布。

「ぬ」

「私」達 母。

「は」

役者4 「じ」は、

役者5 ほんの、
役者8 本。
役者6 ホンの物、も
役者2 本物。

「も」「の」が落ちる。

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

「私」達 日本。

「ほ」落ちる。

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

「け」

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

「や」

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

「ご」

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

役者3 わん！

「わ」

皆 ぶぶぶぶぶぶぶぶ

役者2 ぶーん…

「ぶ」「ん」

役者4 …時

役者8 宇

役者5 自、
皆 シジジジ…、

最後に「じ」が落ちる。
動くものは何も無い。

〜終〜

【上演記録】2012年3月 東京／下北沢「劇」小劇場「若手演出家コンクール2011最終審査公演」

2013年6月28日～30日 札幌／生活支援型施設コンカリーニョ

7月5日～7日 伊丹／AI・HALL 「次世代応援企画 break a leg」

7月19日～22日 名古屋／七ツ寺共同スタジオ

11月15日～17日 広島／アステールプラザ多目的スタジオ

「アステールプラザ芸術劇場シリーズ【リージョナルセレクション】」

2015年 3月13日～14日 福岡／あじびホール

3月20日～22日 東京／シアター風姿花伝

3月27日～29日 仙台／10・BOX

【スタッフ】演出／平塚直隆 舞台監督／柴田頼克 照明／今津知也 音響／田内康介

この戯曲の著作権は、作者である平塚直隆にのみ帰属するものです。
上演許可あるいはその他のお問い合わせは、作者の所属する「オイスターズ」へどうぞ。

■ オイスターズ ■

ホームページ

<https://oysters.official.jp>

メールアドレス

theatrical_unit_oysters@yahoo.co.jp